

中丹のまなび / 16

～豊かに学び続け
未来を拓く力をはぐくむ中丹の教育～

CONTENTS

- 1 豊かに学び続け 未来を拓く力をはぐくむ
ために～日々の授業をより魅力あるものに～
- 2 誰一人取り残さない学びの実現を目指
して～P21「『みんなの笑顔』特別支援教育プロ
ジェクト」の実践より～
- 3 授業者の思いを学習指導や評価に生か
す～P21「中学校数学科授業力向上プロジェクト」の
実践より～
- 4 伝え合う中で、考えや表現をつくり上げ
ることを目指して～P21「中学校外国語科授業
力向上プロジェクト」の実践より～
- 5 中丹管内の小中学校の実践から学ぶ
～組織的な授業改善による学力の向上～
- 6 学習活動における具体的な指導・支援
の充実に向けて

豊かに学び続け 未来を拓く力をはぐくむ

現行の学習指導要領では、急速に変化し予測困難な社会を生き抜くために、子どもたちが「未来の創り手」となる力をはぐくむことが重視されています。

こうした社会の背景を踏まえ、中丹教育局では『豊かに学び続け 未来を拓く力をはぐくむ中丹の教育』をコンセプトに、「人生100年時代、主体的に楽しんで学び、目標に向かって粘り強く努力し、新しい時代を創造するような人に育ててほしい」という願いの実現に向け、「魅力ある学校づくり」を取組の重点として教育活動の推進に取り組んでいます。

「魅力ある学校づくり」を進めていく上で大切にしたいことの1つは、「子どもたちが学校生活の中で最も多くの時間を過ごす授業を魅力あるものにする。」ということです。そのために、授業では、新しいことが分かる喜びや難しいことができるようになる楽しさを味わわせるとともに、学んだことが生活の場面でも活用でき、生きて働く「確かな知識」となり、自分の未来を切り拓くことにつながることを、子どもたちに伝えたいものです。また、生徒指導提要で示されているように、「自分が大切にされている」「心の居場所になっている」「大切な意味のある場となっている」と実感できる学級づくりが求められていますが、そのことは「授業の中でも」大切だと考えています。



生徒指導提要改訂のポイント
「中丹のまなび13」P.3~4

つまり、授業を魅力あるものにするためには、「学習指導」と「生徒指導」の2つの視点で教師が子どもたちに指導や支援を行うことが大切ではないかということです。

次期学習指導要領の改訂に向けて、中央教育審議会では、次のように課題を整理しています。

中央教育審議会「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」（令和6年12月25日）
 ≪顕在化している課題≫

- ◇子どもたちが学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない。
- ◇多様性を包摂し、子どもたち一人一人の可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題である。
- ◇子どもたちが習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること、概念としての知識の習得や深い意味理解をすること、自分の考えを持ち根拠を持って明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある子どもが少ないことなどが課題である。
- ◇デジタル学習基盤の効果的活用は、育成すべき資質・能力が十分に意識されず子どもたちの「深い学び」につながっていない事例がある。

これらの課題を解決するためには、子どもの状況を適切に把握し、指導に生かすことが大切です。例えば、**学習指導の視点**で見れば、教師が指導内容を深く理解することで、子どもたちの学習へのつまずきをよりの確に把握することができます。**生徒指導の視点**で見れば、学びを支援したり、個別の対応や手立てを講じたりすることができます。

例として、グループ学習時の机間指導における指導のポイントについて考えてみると、次のようになります。

学習指導の視点で

子どもたちの課題のつまずきを把握したり、一人一人の考え方の筋道や手順を確認したりして、全体指導での共有につなげる。

子どもたちは、課題のどのようところでつまずいているかな？

考え方の筋道や手順をどのように進めているかな。他と違う考え方をしている子はいるかな？

生徒指導の視点で

子どもたち一人一人が自分の考えを自由に述べられる雰囲気がつくられているか、この子どもは今日のような支援を必要としているか、等を観察する。

一人一人が意見を言い合っているかな、分からないことを否定せず自然に助け合っているかな？

自分で考えようとしているかな。課題に向かって集中して取り組んでいるかな？

ために ~日々の授業をより魅力あるものに~

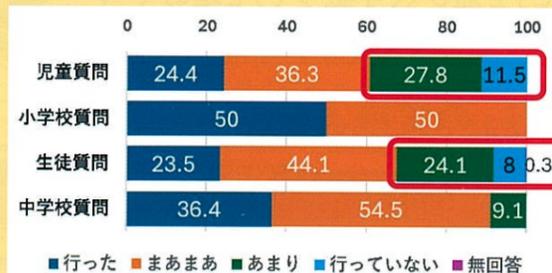
教師の意図を明確にした授業づくりのために

それぞれの学校では、これまでから授業を魅力あるものにするため、単元を通して付けたい力を意識した計画を立て、授業の中で発問や学習形態などに様々な工夫をして授業実践をされていると思います。

その上で、さらに課題の改善に向けて意識したいことは、「**教師の意図***」が子どもたちに正しく伝わっているかということです。下の参考資料に見られるように、教師が指導事項に対して「このような活動を行うような授業を行った」と思っている、子どもたちは「そのような活動を行った」という実感が持てていない、ということがあるのではないのでしょうか。授業の中で、「本時のねらいを全ての子どもたちに達成してほしい」「この活動ではこのような力を付けてほしい」「導入で確認したことを生かして本時のねらいに迫ってほしい」など、その授業における教師の意図が明確か、またその意図が子どもたちの学習活動につながっているか、自分の授業を振り返ってみましょう。その際、「学習指導」と「生徒指導」の2つの視点で指導や支援を考えてみましょう。（具体的な視点は11ページに記載しています。）学習形態の設定や使用する教材などどのようなねらいや効果があるのか意識して授業づくりをしましょう。

参考資料

令和7年度全国学力・学習状況調査 ☆児童（生徒）質問項目（58）／★学校質問項目（47）
 ☆ 算数（数学）の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。
 ★ 調査対象学年の児童（生徒）に対する算数（数学）の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童（生徒）に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか。



児童（生徒）質問項目(58)と学校質問項目(47)との比較（中丹）



児童（生徒）質問項目(58)と算数・数学の正答率とのクロス集計（中丹）

児童（生徒）質問調査では、質問に対し否定的回答の割合が高いのに比べ（グラフの赤棒）、学校質問調査では否定的回答の割合が低い結果となりました。

肯定的回答をしている児童生徒ほど、算数（数学）の正答率が高い傾向が見られました。

教師は子どもたちに「こんな力を付けてほしい」と思っているけれど、その思いが子どもたちに伝わっているのでしょうか？

グループワークで一部の子どもしか説明していない場合は、全ての子どもが「説明する活動をした」と感じていないかもしれませんね。

子どもたちが「今日こんなことを学んだ」という実感が、学習の達成感や次に学ぶ意欲につながっているのかもしれないですね。

思考力や表現力の育成につなげようとする教師の意図が子どもたちに伝わることで、児童生徒が学ぶ意義を実感して授業に臨み、学力に影響を与えるのかもしれないね。

☆ 中丹プロジェクト21（以下P21）では、特別支援教育、数学科、外国語科の各プロジェクトにおいて授業改善の実践を進めています。次ページ以降で研究員の取組や、管内の学校の実践を紹介しています。教科に関わらず大切な視点をたくさん含んでいますので、参考にしてください。また、各校でも多くの先生方がよい実践をされていますので、互いに学び合う姿勢を大切にしましょう。

* 教師の意図…ここでは教師がどのような子どもを育てたいのか、どのような学びを実現したいのか、なぜこの活動を行うのか、といった理念や価値、願い、思いの総称（授業観・指導観・ねらい等を包含したもの）と定義します。

誰一人取り残さない学びの実現を目指して

～P21「『みんなの笑顔』特別支援教育プロジェクト」の実践より～

「みんなの笑顔」特別支援教育プロジェクト 研究テーマ

みんなが「できた！分かった！」を実感できる授業づくり
～居心地のよい学級を土台にして～

小学校や中学校の学級には、多様な子どもたちが在籍しており、様々な違いがあります。

発達段階 理解のスピード 得意な学び方(見る・聞く・書く・動く等) 認知特性

このような多様な子どもたちがいることを踏まえた授業づくりが、今求められています。「みんなの笑顔」特別支援教育プロジェクトでは、**全ての子どもが安心して学べる学級づくり**を基盤として、**全ての子どもが参加でき、分かりやすく学びやすい授業づくり**について、研究を進めてきました。このページでは、その実践事例を紹介します。

①全ての子どもが安心して学べる学級づくりの取組

Q. 安心して学べる学級づくりに向けて、どのようなことを大切にしていればよいでしょうか。

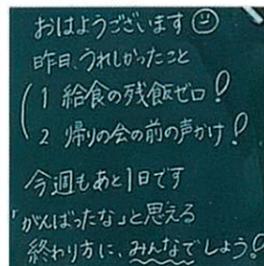
A. 安心して学べる学級づくりに向けて、日常からの教師の子どもたちへの関わり方や日々の取組が大切だと考えます。プロジェクトでは、「一人一人を大切にすること」「子ども同士をつなげること」「学習環境を整えること」を通して、学級づくりを進めてきました。



研究員による安心して学べる「学級づくり」の実践より

①一人一人を大切にすること

- ・健康観察の時に笑顔で子どもと目を合わせる。
- ・黒板にメッセージを書いて伝える。…(資料①)
- ・丁寧な言葉かけを意識する。
- ・多様な意見を取り上げて板書し、価値付ける。
- ・行事で一人一人が活躍できる場をつくる。
- ・欠席児童の机や配付物を整える。



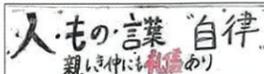
資料① 黒板メッセージ

②子ども同士をつなげること

- ・友達とのやり取りを楽しめる活動を取り入れる。…(資料②)
- ・友達の話聞く場面を意図的につくる。(ペア、グループ、全体)
- ・友達の話聞いて、「なるほど」「確かに」など反応する力を育てる。
- ・子どもの「分からない」を学級全体で共有し、みんなで考える時間をつくる。



資料② 朝の会の活動



資料③ 学級のルールの掲示

③学習環境を整えること

- ・教師も子どもも、時間を守ることを大切にする。(授業の始まり、終わり等)
- ・生活規律や学習規律を整える。
- ・学級で大切にすることを共有し、折に触れて子どもに立ち返らせる。…(資料③)
- ・週予定や活動内容を示し、見通しが持てるようにする。



教師が一人一人の子どもを大切にできる姿勢は、日常の教育活動を通して子どもに確実に伝わります。教師は子どもにとって重要な環境の一つだと考えます。

②全ての子どもが参加でき、分かりやすく学びやすい授業づくりの取組

Q. 学級には多様な子どもたちがいます。全ての子どもに支援をすることは難しいと思いますが、研究員の先生方はどのように取り組まれていますか。

A. 研究員の先生方は、まず、**子どもの実態を丁寧に把握**することを大切にされています。授業づくりでは、**子どもの困り感が生まれそうな場面、支援が必要になる場面を想定し、学級全体の手立てや個別の手立てを考へて授業に臨まれています。**このような、「(実態が)～だから、…しよう」という意図のある授業づくりが、結果的に子どもの「分かりやすさ」「学びやすさ」につながると感じます。



研究員による「授業づくり」の実践より 【授業づくりで大切にしている2つの視点】

①授業への参加度・活動度を高める

→授業の準備や展開の工夫で高められると考えています。

全員が授業全てに集中することは難しいという前提で

見させる指導より、**見たくなるしかけ**
聞かせる指導より、**聞きたくなるしかけ**



日常生活とつなげた課題提示の例

「先生の悩みを聞いてください。今度ランニングをする時に飲み物を持っていきたいんです。多く飲み物を持っていきたいのですが、どちらの入れ物の方が、多く水が入るでしょうか?」【1年・算数「おおきさくらべ」】…(資料④)



資料④ 子どもの考えた方法で、実際にかさを確かめる。

本時の課題が子どもたちにとって自分事となり、今までの生活経験を生かして比べ方を考えていました。

多様な学習活動の設定

- 「聞く」「書く」以外にも…
- ・「声に出す」
 - ・「動作化する」…(資料⑤)
 - ・「話す・交流する」



資料⑤ 算数で垂直と平行の意味を確認する時に、動作化を使う。

子ども同士をつなぐ

子どもの「分からない」から、みんなで話し合う。子どもの「もう一度説明して」から、みんなで深め合う。教師はコーディネイト役

②オプション(支援の選択肢)の提示

→自己決定⇒主体性発揮の第一歩

学び方や学習の理解度は個々に違うという前提で、子どもが最適な方法を**自己決定**する場面を設定しています。

自力解決の場面で…

「ヒントあり」「ヒントなし」をワークシートの両面に印刷し、使いたい方を選択する。

思考する場面で…

「一人でorペアでorグループで」「先生にヒントをもらって」「教科書を見て」から選択する。

考えをまとめる場面で…

(算数なら)言葉で、式で、図で、絵でまとめる等、自分が表現しやすい方法を選択する。

練習問題を解く場面で…

全員が必ず解く問題の他に、自分の力に応じて「基礎」「発展」から問題を選択する。

振り返りの場面で…(資料⑥)

「レベル1(基本)」または「レベル2(発展)」から、振り返りの視点を選択する。



資料⑥ 振り返りの視点



学級づくりや授業づくりを進める中で、どの研究員の学級においても、子どもが「分からない」と伝えられるようになっていたり、授業への参加度や活動度が高まったりする等の変化が見られました。「できた!分かった!」を実感できる授業づくりに向けての取組は、「誰一人取り残さない学びの実現」につながるものだと実感しています。

授業者の思いを学習指導や評価に生かす

ここでは、令和7年度の中学校数学科授業力向上プロジェクトの実践で、大切にしてきた授業改善の様々な視点の中から「指導と評価の一体化」について情報発信するとともに、研究員の実践事例についても紹介します。

1 「指導と評価の一体化」に向けて

教科の指導を行う際には、単元の目標とそれに応じた評価規準を設定し、1時間1時間の授業をどのように行い、どのような資質・能力を育成するのかを意識して単元を構想します。そして、授業ごとの目標（ねらい）に対する子どもの学びの状況を振り返り、授業者の指導改善や子どもの学習改善につなげていきます。そのためには、授業ごとの目標（ねらい）に応じた評価の視点が必要となります。ここでは、第3学年「2次方程式」の単元において、ある1時間の授業（記録に残す評価を実施する授業）を例にして、大切にしたいポイントをまとめています。

○ 本時の授業

「因数分解」、「平方根の考え」、「解の公式」それぞれを使って2次方程式を解く学習をした後の「知識・技能」の定着を図る時間

○ 本時の目標（ねらい）

既習事項を振り返り、2次方程式を解く際の注意点を整理することにより、いろいろな方法で2次方程式を解くことができる。【知識・技能】 <ワークシートの記述を評価>

評価	評価の視点
「おおむね満足できる」状況 (B)	気を付ける視点が書かれており、2次方程式を解くことができているかどうかを見取る。
「十分満足できる」状況 (A)	気を付ける視点とその視点を選んだ理由が書かれており、その視点を意識しながら2次方程式を解くことができているかどうかを見取る。
努力を要する状況への手立て	「因数分解」、「平方根の考え」、「解の公式」のどの考えを使った解法が苦手なのかを確認し、全体で共有した注意点を参考にさせることで、自分が気を付ける視点が何なのか、見通しを持たせる。



授業者が果たす役割

- 単元や授業の目標（ねらい）と評価規準（評価の視点）を子どもと共有する。
- ルーブリックや振り返りシート等を用いて、子どもが自分の学びを振り返る仕組みをつくる。
- 評価の視点をもとに、どこがよいか、どこを改善すべきかを具体的に子どもに伝える。



期待する子どもの姿

- 単元や本時の授業で「何ができるようになるか」を把握し、学習の見通しを持つ。
- 協働的な活動を通して、多様な考えを認め合い、学びを深める。
- ルーブリックや評価の視点を理解した上で、改善点を見つける。

授業ごとの評価をその後の指導改善や学習改善に生かす

- 評価で得られた情報から、次の授業の構成や支援方法を見直す。
- 子どもの実態に合わせて、単元構想を柔軟に再設計する。
- 授業展開と評価を往還させながら、学習指導の質を高める。

- 問題解決の過程を振り返り、次時以降の学習において、新たな発想を生み出す。
- 自分の課題や伸ばしたい力を踏まえて、学習方法を再考する。
- 授業者からのフィードバックを活用し、学習の質を高める。



評価の視点を明確にすることで、本時の授業で、どのような学習活動が必要か、どのポイントを押さえる必要があるか、ワークシートの内容をどのように工夫すればよいか、さらに十分に満足できる状況に到達させるためには何が必要かなど、授業デザインがイメージしやすくなりました。



～P21 「中学校数学科授業力向上プロジェクト」の実践より～

2 「きらりと光る」研究員の実践紹介

学習形態を選択

※「個別」・「ペア、グループ」・「授業者と」



授業者が目的・意図を持って、子どもに学習形態を指示することに加えて、子ども自身が自分の状況を踏まえて学習形態を選択する機会を設けています。そのことで、学習意欲の向上や自己管理能力の高まりが期待できます。

このような場合においても、授業者は様々な学習形態で学ぶ子どもの状況を適切に見取ることが必要です。授業の最後にもう一度、個人で適用題に取り組ませる機会を設けたり、振り返り活動を工夫したりすることで一人一人の学びの状況を適切に見取るようにしましょう。

ICTの効果的な活用

※ 授業者それぞれの実践をデータで蓄積することで、学校（市）全体の知的財産になり得る



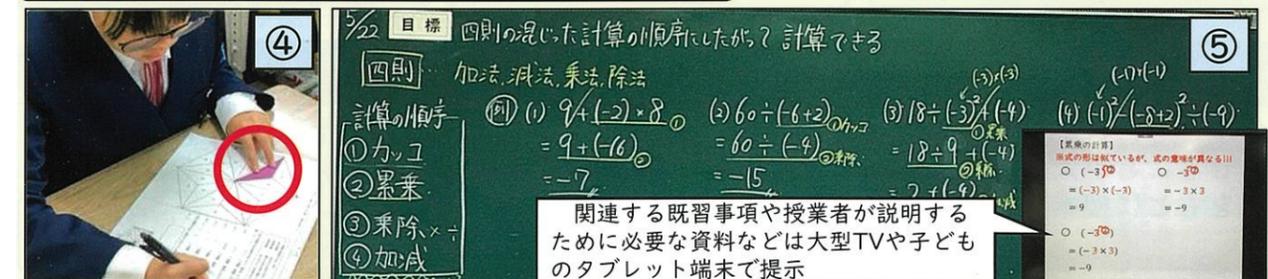
①は、辺上を動く点のイメージを持たせるために、教科書のQRコンテンツにはないものを授業者が作成したアニメーションです。動点の動きを視覚的に確認することで、問題の理解や見通しを持つことにつながります。

②は、クラウド上にある各学力層に応じた問題であり、授業者の指示や子ども自らが問題を選択して取り組みます。授業内外に限らず、子どもの好きな時間に取り組めることも強みです。

③は、授業者が「ヒントカード」を作成し、特定の子どもにタブレット端末を用いて送信したり、子ども自らがヒントカードが必要かどうかを判断して活用したりします。見通しを持たせたり、大切な視点を与えたりすることは、個に応じた効果的な支援につながります。

以前から大切にしてきたアナログ*のよさ

※「アナログ*」…紙、実物、実体験等と定義する



④は、図形の移動（平行・回転・対称）を学習する際に、具体物を実際に操作しながら、ワークシートに取り組んでいる場面です。具体的な体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解につながっています。

⑤のように、デジタル機器での提示と板書を目的に応じて使い分けることも重要です。板書では、問題解決に必要なポイントを整理したり、授業の流れが一目で分かるようにしたりしましょう。

学びの軌跡を可視化

※ 事例はこちら

授業ごとの振り返りをデータとして蓄積することにより、子どもにとって、授業ごとの関連性や理解度が捉えやすく、単元や学習のまとまりを把握しやすくなります。



「子ども一人一人の学習の成立を促すための評価」という視点を一層重視することや、授業者の意図を明確にした授業づくりを大切にして、授業改善に取り組んでいきましょう。

伝え合う中で、考えや表現をつくり上げること

学習指導要領では、実際に英語を使い、話したり、書いたりする活動（＝言語活動）を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成が目標として設定されています。そのため、言語活動の充実と言語活動を通じた指導の充実が重要となります。そして、それらの実践とともに生徒の主体性や学びを調整する力をはぐくむことが重要と考え、研究を進めました。

1 言語活動の充実と言語活動を通じた指導の充実に向けて

つながりのある指導計画

言語活動の充実を図るために、単元末の言語活動へとつながる学習活動を授業（3、5、7、9～10時）に設定しました。

そして、言語活動を通じた指導の充実を図るために、よいモデルとなる生徒の発言や教科書本文を活用し、内容面や文章構成に関わる指導を大切にしました。

また、授業者の指導の充実に向け、単元末の言語活動における具体的なモデル文（評価基準）を作成しました。

時	ねらい
1	■教師の家族または友人の紹介を聞いて単元ゴールのイメージを持ち、自分の発表に向けて目標を設定できる。
2	■本文から三人称単数現在形が使われる場面やきまりを理解できる。
3	■三人称単数現在形の特徴やきまりへの理解を深め、身近な人物について伝えることができる。
4	■本文を読み、三人称単数現在形の疑問文の使われ方やきまりを理解できる。
5	■三人称単数現在形の疑問文の特徴やきまりへの理解を深め、人物について質問したり、答えたりできる。
6	■本文を読み、三人称単数現在形の否定文の使われ方やきまりを理解できる。
7	■三人称単数現在形の否定文の特徴やきまりへの理解を深め、紹介する友人の家での過ごし方について話すことができる。
8	■今までに読んだ本文の内容について振り返り、おおまかな内容を説明することができる。
9	■登場人物の友人紹介を参考に、自分の家族または友人についての紹介を作成することができる。
10	■どのように紹介すれば、紹介する家族または友人の内面やよさが聞き手に伝わるかを考えることができる。
11	■ALTに自分のことをくわしく知ってもらうため、自分の家族または友人について紹介することができる。

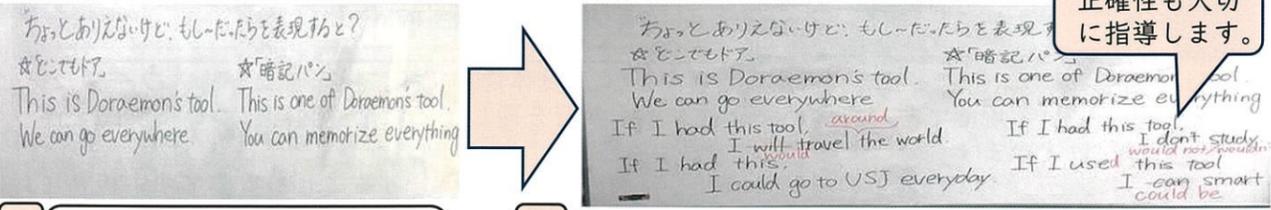
①「語句や文法を言語活動の中で繰り返し使いながら習得する」、②「子どもが授業ごとの言語活動を通して単元末の言語活動につながる考えや表現をつくり上げる」指導計画が求められています。

例 おおむね満足できる状況 (B)
I like my brother.
He is Kai.
He likes running.
He is a member of the track and field club.
※人物を紹介する内容となっている。

例 十分満足できる状況 (A)
He is very active.
He is good at running long distance.
I also like running.
I want to run like him.
※Bに加え、自分との共通点や自分の気持ちを伝える内容となっている。

Small Talk ～導入場面と展開場面のつながりを生むために～

子どもに自身の思考の変容を感じさせるためには、それぞれの学習活動につながるを持たせることが大切です。導入場面で設定したSmall Talkという学習活動で生徒が考えた内容をもとに授業を展開していくことで、伝える内容が深まりました。



導入 Small Talkで生徒が考えた説明文を板書したものです。既習事項を使い、道具の説明をしています。

展開 仮定法の学習後、再度、Small Talkに付け加える文章を考えました。仮定法を用いて道具を使って「できること」や「すること」を付け加え、自分の考えや思いを含む文章となりました。

言語活動では、子どもの表現の幅を広げる指導や英文の正確性を大切に指導をします。言語活動を充実させるためには、「何のために伝えるのか」という「目的」が重要です。そのため、言語活動に明確な「目的」を設定することを大切にしてください。

を目指して ～P21「中学校外国語科授業力向上プロジェクト」の実践より～

Picture Description～表現力を高めるために～

英文を考える手掛かりとなる単語も提示しています。

New Year/fish

Is it Kamaboko?

We eat it at New Year.
It is made from fish.
We eat it with udon.

提示された画像について3文程度の英文を使ってペアで伝え合う活動です。習得させたい文法や語句などを意図的に使わせるねらいがあります。子どもから出たよい表現を共有しました。

伝えたいことを聞き手に伝えるには、どのような表現を用いればよいかを考えさせることも言語活動を通じた指導の大切なポイントです。

2 主体性や学びを調整する力をはぐくむための工夫

振り返りシートを用いて

子どもの学習状況を把握するだけでなく、次時の導入場面で、「振り返りシート」をもとに、多くの生徒が気付いていなかった観点を紹介し、より深い学びとなるようにつなげました。

ふりかえり
①「too形容詞 to 動詞」のポイントは何？（意味？場面？用法？）
too形容詞 to 動詞で否定の意味があり、not が必要で「できない」になる。

ふりかえり
①「too形容詞 to 動詞」のポイントは何？（意味？場面？用法？）
だまかに to 動詞で否定の意味があり、not が必要で「できない」になる。この時、too 形容詞 to 動詞の順で文を作る。

子どもの学習状況を適切に把握するためには、「振り返りからどのようなことを把握したいのか」という具体的なねらいを持つことが大切です。

振り返りの質を高めるために、以下の視点を示しました。
ア「文法のルールや意味について理解したこと」
イ「使用できる場面や目的として考えたこと」

ICT活用～自ら学びを進めるために～

文章を入力すると読み上げてくれる無料の音声読み上げソフトを使い、発音練習に取り組みました。繰り返し音声を聞き、粘り強く発音練習に取り組む姿が見られました。



タブレットの音声に耳をかたむけ、聞き取っている様子

子どもが自ら学びを進めることのできる力をはぐくむためには、授業者が学び方を提示し、子どもが選択する機会を与えることが重要です。ICTのよさを生かし、効果的に活用することで子どもの状況に応じた学びにつながります。

プロジェクトを通して

単元構想に基づく目標や評価規準の設定・共有を行い、振り返りを生かした授業改善と言語活動の充実を進め、子どもの反応等から研究員の先生方と授業について考えることを大切にしました。授業者が単元構想を持ち、子どもの実態に応じた授業づくりを進めることの重要性を改めて実感しています。今後も言語活動を充実させながら、よりよい授業づくりに取り組んでいきたいと思ひます。（アドバイザー）

綾部市立西八田小学校の実践

令和7年度京都府小学校教育研究会外国語教育研究大会研究発表校です。全ての言語活動に明確な目的を設定し、単元のゴール活動につながる単元構想をはじめ、1時間の授業の中に「個別最適な学び」と「協働的な学び」となる学習活動を効果的に位置付け、子どもの考えを深める授業づくりをされています。指導案をご覧ください、授業づくりの参考にしてください。



中丹管内の小中学校の実践から学ぶ

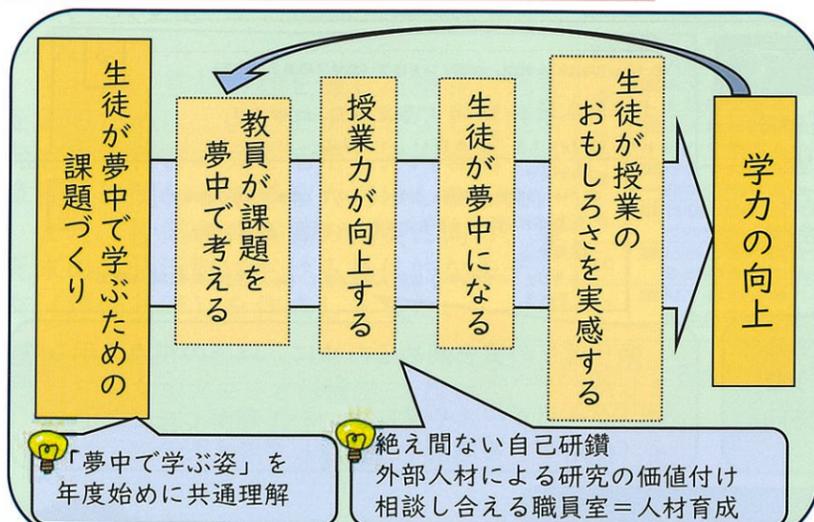
学力の向上が見られる学校は、教職員が一体となって組織的に研究推進や授業づくり・授業改善に取り組んでおられることが分かりました。本ページでは、全教職員で共有された目標に向かって、組織全体で取組を進めている2校の実践を紹介します。

【福知山市立南陵中学校】

「すべての生徒が“夢中”で学ぶ授業づくり」の推進 ～「課題づくり」を柱に～

令和3年度から、「すべての生徒が“夢中”で学ぶ授業づくり」を研究主題に、教員による課題づくりを柱として、子どもの学びが中心の授業づくりを進めておられます。全教職員が研究を自分事として受け止め、日々の実践へと生かしていく。そのような循環をどのようにつくり、学力向上につなげておられるのか—その実践を紹介します。

〈夢中で学ぶ課題を設定した授業づくり〉



全教職員で研究を進める工夫とは？

- 🔦 同じ教科の教員で協議した課題は、他教科の教員からも意見をもらい、検討を重ねる！
- 🔦 事後研究会では、一人一人の実践につながるテーマを設定する！

例) 「子どもたちが学び合える授業をつくるために、私たち教師は何をすればよいのだろう。」

目指す方向性を共有する学校組織

授業改善の柱にしている「課題」とは？

- 答えが一つではなく、複数あるもの
- 自ら学びに向かいたくなるもの
- 授業後にも考えたいもの
- 対話を通して、様々な見方・考え方を他者とすり合わせ、自分の解を見付けられるもの

例えば

国語科（第3学年「高瀬舟」）
【単元の課題】
庄兵衛と喜助の「沈黙」は何が違うか？
課題① 庄兵衛と喜助の人物紹介カードを完成させよう。
課題② 「黒い水の面」には、なぜ「黒」が使われるのか？ 次の文と比べながら説明しよう。
・沈黙の人二人を乗せた高瀬舟は、夜の川を下っていった。
課題③ 2人の沈黙の違いを2色の色で表し、その理由を2人の【人物像】をもとに説明しよう。



音楽科では、「耳でたどる音楽史」の学習において、教師主導ではなく、各時代の音楽を生徒に提示し、グループで相談しながら特徴を捉えさせる方法を取り入れました。すると、対話を通して学ぶおもしろさを感じながら、意欲的に学ぶ生徒の姿が見られました。

学力向上につながる研究にするには、目指す方向性を共有し、年齢や立場を超えて互いに学び合う教職員集団であることが重要です。その土台をもとに、教職員の対話を通して授業づくりに取り組んだ結果、子どもたちの学びに向かう力がはぐくまれている実践です。

～組織的な授業改善による学力の向上～

【綾部市立東八田小学校】 小規模校のよさを生かした学力検証システムの構築
～児童一人一人の学力の向上に向けて～

学力の向上に向けて、児童一人一人の「学力分析シート」を作成し、活用されています。子どもたちの学力の推移を把握するだけでなく、学力実態をもとに授業改善をし、そのことが学力の定着に結び付いているかを検証するシステムを組織で構築し、確かな学力につなげている実践例です。

学力分析シート（全児童分作成）

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語科	検証	検証	検証	検証	検証	検証
名前(〇〇〇〇)	テスト	...	年度始め調査	テスト	年度始め調査	テスト
知識・技能	71	...	73	72	84	83
思考・判断・表現	63	...	65	64	66	77
平均	67	...	69	68	75	80
府・全国平均	70	...	75	70	77	76
平均との差	-3	...	-6	-2	-2	4

R	1年		4年		5年		6年	
	検証	テスト	年度始め調査	検証	年度始め調査	検証	全国学調	検証
名前(〇〇〇〇)	テスト	...	年度始め調査	テスト	年度始め調査	テスト	全国学調	テスト
知識・技能	71	...	73	72	84	83	80	85
思考・判断・表現	63	...	65	64	66	77	76	81
平均	67	...	69	68	75	80	78	83
府・全国平均	70	...	75	70	77	76	70	78
平均との差	-3	...	-6	-2	-2	4	7	5

- メリット① 個人の経年変化が一目で分かり、学力実態を把握できる。
- メリット② 観点別の学力状況を把握できる。

これまでの各種学力調査、年度始めの学力調査、普段の授業の様子などから学級全体、個人の学力実態を把握し、V 一人一人の学力を高めるために授業改善を行う。

🔦 授業改善のポイント 🔦

- ① 課題が見られる領域
- ② 回復するために扱う教材とその目標
- ③ 学力層ごとの具体的な手立て

授業改善と回復状況とその検証

P D	I 学期 授業改善	2 学期	3 学期
①◆書く	②「デジタル機器と私たち」（書く）の学習で、情報と情報との関係付けの仕方、文章全体の構成力を高められるようにする。また、日々の学習後の振り返りでは、条件を提示した上で書かせ、読み返し、条件に合う内容を書くことができているか確認することを習慣付ける。 ③B層（該当児童名を記入） →条件を理解して書くことに慣れるよう…する。（具体的な手立て） ③C層（該当児童名を記入） →指定した簡単な言葉を文章に取り入れ…する。（具体的な手立て）	A	A
②◆書く		2学期の授業改善点を記入	3学期の授業改善点を記入
③◆書く		回復状況と検証結果を記入	回復状況と検証結果を記入
C	回復状況とその検証	2 学期	3 学期
①◆書く	③B層→日常的に条件作文に取り組んだことで、全員が条件を満たした作文を書くことができた。また語彙が増えることにもつながった。 ③C層→〇〇以外については指定した簡単な言葉で…できた。	回復状況と検証結果を記入	回復状況と検証結果を記入
②◆書く		回復状況と検証結果を記入	回復状況と検証結果を記入
③◆書く		回復状況と検証結果を記入	回復状況と検証結果を記入

R「授業・学力調査」→ V「授業改善の方針」→ P「授業改善の計画」→ D「授業改善」→ C「回復状況の見取り・検証」→ A「次学期・次学年につなぐ」のサイクルを年間を通して回すことで学力の定着につながっています。学力検証システムがうまく機能している実践例です。

学習活動における具体的な指導・支援の充実に向けて

「本時の目標」の達成に向けて設定された様々な学習活動を子ども一人一人にとって意味のある活動にするためには、授業者が具体的な手立てを考えて授業に臨むことが大切です。ここでは、その手立てを考えるためのポイントを確認してみましょう。

指導・支援の充実に向けたポイント

○何のための学習活動であるかを確認する。

例) 考えを持たせる、考えを深める など



学習活動に適した学習形態になっているかを確認しましょう。

○子どもの実態から「つまずき」や「課題が早く終わる」などの状態が起こりうる場面を具体的に予測する。

例) 表に整理する学習活動において、文章から必要な情報を読み取ることにつまづくのでは。

子どもの学習活動の様子を予測するには、日常的な関わりや各種学力調査結果等から子ども一人一人を理解することが大切です。



○「つまずき」や「課題が早く終わる」といった状態を改善するための具体的な手立てを考える。

例) 着目させる語句、チャレンジ問題の設定 など



授業者が直接行う手立てや声かけなどを考えましょう。

～中丹プロジェクト21「みんなの笑顔」特別支援教育プロジェクト研究員の指導案から一部抜粋～ 算数 第4学年 単元名「変わり方」

過程	学習活動	学習形態	指導上の留意点
導入 5分	○問題を読む。	一斉	・題意を正しく理解するために、「まわり」の部分指でなぞらせる。→①
	○見通しを持つ。	一斉	・情報を整理するために、表にまとめると分かりやすかったことを確認する。 ・前時では式にすることができたことも確認する。→②
	○めあてを立てる。	一斉	・児童の言葉でめあてを立てる。→③
表を使って整理し、きまりを見付け、式にしよう。			
展開 33分	○表に整理する。	一斉	・まわりの長さの数え方を間違えないような工夫を紹介する。→④ ・初めの一部を埋めて、表の見通しを持たせる。
	○自分の考えをもつ。	個別	・見付けたきまり、式、説明などをメモさせ、自分の意見を持ってから話し合いに参加させる。→⑤ ・きまりを見付けることが困難な児童にはヒントカードを与える。 ヒントカードの内容 ①表を横に見ると? ②表を縦で見ると? ③段が1段増えると、まわりの長さはどうなる? →⑥
	○グループで考える。	グループ	・グループで考えを図や式にしてボードにまとめさせる。 ・グループの中で分からない人を残さないように、説明をし合うなどさせる。 ・表の数字が間違っている班がないか確認する。 ・表から気付いたことを言葉にすることが難しい班には、矢印や+〇〇などのメモでもよいことを伝える。→④ ・式にするときは、表を縦に見て考えるとよいことを思い出させる。→⑦ ・言葉の式から、記号を使った式に変形する。
	○交流する。	一斉	・児童の考えをもとに、いろいろな式に表せることを確認する。 ・数を当てはめて、式が正しいか確認する。
	○問題を提示する。	一斉	・式を使って解けることに気付かせる。 ・図や表をかくには時間がかかり、ミスも起こりやすいため、式が有効であることも確認する。→⑦ ・早く終わった児童には、〇だんの場合の自作問題に取り組ませる。→⑧ ・自作問題も取り上げ、式を使うよさに気付かせる。→⑨

「指導上の留意点にある様々な視点」

- ①具体的に取り組むことを把握させ、見通しを持たせる
- ②既習事項とのつながりを実感させる
- ③本時の学びを自分ごとにする
- ④支援を要する児童への具体的な手立て
- ⑤次の活動へ参加させるための手立て
- ⑥子どもが自分自身の力で問題を解決するための具体的な手立てや補助発問
- ⑦本時の目標にせまる指導事項の明確化
- ⑧課題が早く終わった子どもへの手立て
- ⑨子どもの学びを深めるための手立て
(統一的・発展的な考察)

子どもの様子を思い浮かべ、どんな手立てを行う必要があるのかを考えましょう。

京都府総合教育センター作成
資料も参考にしてください。

「学習指導案ハンドブック」指導案記述具体例



「教えてセンタ君」
授業づくりポイント紹介



発行：令和8年3月